

Hakodate Campus Press

はこだて キャンパスプレス

VOL.4



特集 8高等教育機関

学生相互インタビュー

平成18年10月25日に行われた学生意見交換会の模様を特集してお届けします。

- ①函館大学→函館大谷短期大学
- ②函館大谷短期大学→北海道大学水産学部
- ③北海道大学水産学部→ロシア極東国立総合大学函館校
- ④ロシア極東国立総合大学函館校→函館工業高等専門学校
- ⑤函館工業高等専門学校→北海道教育大学函館校
- ⑥北海道教育大学函館校→函館短期大学
- ⑦函館短期大学→公立はこだて未来大学
- ⑧公立はこだて未来大学→函館大学

+ (プラス) 各校トピックス

学生相互インタビュー

1

A インタビューされた人

函館大谷短期大学

こども学科専攻科(福祉専攻)1年

加藤 歩さん

こども学科専攻科(福祉専攻)1年

清田 有喜さん



Q インタビューした人

函館大学

重山さん・野邊地さん

Q. 函館大谷短期大学ってどんな大学ですか?

A. 就職がさかんな短期大学です。

Q. 新しい学科はいつからですか?

A. 今年度(平成18年度)からです

Q. それぞれ、どんな学科なのですか?

A. こども学科は、附属幼稚園に保育園併設(総称こども園)に伴い設置されました。

(旧幼児教育学科)

●幼稚園教諭免許状2種、保育士資格、社会福祉主事任用資格が取れます。

●保育心理コースでは、ピアヘルパーという資格が取れます。

・コミュニティ総合学科

●「システムアドミニストレータ」などの情報のエキスパートをめざす情報カテゴリや「ピアヘルパー」などのカウンセリングを学ぶ心理カテゴリという、「カテゴリ」というユニークな授業の組み方があります。

こども学科専攻科
(福祉専攻)1年

清田 有喜さん

函館市出身

こども学科専攻科
(福祉専攻)1年

加藤 歩さん

函館市出身

●いろんなこと、自分のやりたいことを幅広く学べます。また、資格をたくさん取れるよう「資格ユニット」という授業の組み方があります。

例:お花(資格取得者有)、中国語等、システムアドミニストレータなど

●時間割は決まっておらず、自由に選択ができます。
→4年制大学のような感じです。

Q. 函館大谷短期大学の自慢は?

A. 授業でしか分からない現場の雰囲気があります。
→附属のこども園で実習ができます。

ボランティアが盛ん(全学科挙げて社会とのつながりを大切にしています。)

●コミュニティ総合学科では、野外劇への出演や、こども学科では幼稚園等でボランティアを行っています。
短大をいろいろな公開講座などで積極的に開放しています。

Q. 自慢の施設はありますか?

A. 「多目的ホール」と「ピアノ練習室」です。

Q. どんなサークルが盛んですか?

A. 光る影絵(部員数20名弱)です。

●ブラックライトで光る塗料を使用して行います。以前は韓国講演もし、異文化との交流ともなっています。

●実習以外の様々な場所で自分のため、相手のためになり、また、新たな自分発見の場にもなりました。



2

A インタビューされた人 北海道大学水産学部

海洋生物生産科学科3年
浅野 由佳理さん

海洋生物資源化学科3年
位上 健太郎さん



Q. 水産学部に入った理由は何ですか？

A. 元から、海が好きだった事と、北海道…特に雪への
あこがれがあり入学しました。水産学部に入り初めの頃
とは興味は変わってきましたが、今も大変興味を持って
取り組んでいます。

海に魅力を感じており、水産の大学が少ない中から選
びました。生体性や捕鯨問題に取り組んでいます。今は
食糧問題を水産の側からできないか研究しています。



Q. 私たちは介護の勉強をしていますが、お年寄りが魚
を食べる時に骨がひっかかるないように細心の注意が必
要になります。例えば骨の少ない魚などの研究とかは
ないのでしょうか？

A. 魚の骨自体を少なくすることはできませんが、缶詰に
したりすると柔らかくなるので、安全に食べることができます。
私たちは、鮭など魚からとれる肉や骨を分子の関係から学んでいます。又、魚の無
駄になる部分や、食べられないものを、今後どう生かしていくか、色々なアイディアから視点を広げて研究して
います。



Q. 函館キャンパスと札幌キャンパスの両方を経験して
いると思いますが、利点はどこですか？

A. 函館キャンパスでは、水産学部しか存在しないため
人数が少なく、教師と生徒間とのつながりが深く個人指
導などに長けているのに対して、学生間、学部間のかか
わりは希薄になっています。情報が限定されてしまって
いるように感じているので、札幌キャンパスを参考にして
考える事ができます。2キャンパスの良い所を取り上げ、お互に伸びることができる点は利点です。



3

A インタビューされた人

ロシア極東国立総合大学函館校

ロシア地域学科4年

前馬 理慧さん

ロシア地域学科1年

山口 攻さん



Q インタビューした人
北海道大学水産学部
浅野さん・位上さん

Q. ロシア極東大学を選んだ理由を教えてください。

A. 語学というものに元々興味がありました。その中でも隣国であるロシアの言語はこれから必要になってきます。将来的には貿易関係の職業でロシア語を役立てたい。

幼い頃からロシアの文化に触れる機会が多かった。今の自分同様、ロシア語をかつて勉強していた父の勧めもあってこの大学を選びました。



ロシア地域学科4年
前馬 理慧さん

茨城県水戸市出身

Q. 大学はどんな雰囲気ですか。

A. 少人数制の大学で、大学全体でも40人程しかいません。そのため学校の人全員が友達です。でも行事などでは準備をする時に人手不足で大変。

同じ建物内にある国際交流センターに留学生が多く来日する時期には大学内に活気が溢れるので、帰国してしまうと少し寂しくなってしまいます。それでも、4年間同じメンバーで大学生活を送るのは楽しい。



ロシア地域学科1年
山口 攻さん

夕張市出身

Q. 授業内容はどうですか。

A. ロシア人の先生が日本語を使って教えてくれます。学年が上がると共に授業のロシア語の割合は増えていますが、分からなければ丁寧に教えて下さるのでしっかりと勉強できます。ただ、専門しか学んでいないのもっと幅広く勉強したいとも思います。

ロシア語で進められる授業に向けて毎日の課題を頑張っています。たまに忘れると、怒られてしまうことも…。



4

A インタビューされた人 **函館工業高等専門学校**機械工学科 第4学年
村田 緩奈さん環境都市工学科 第4学年
鍵谷 明日香さん機械工学科 第4年
村田 緩奈さん
厚沢部町出身

Q. 来年度から函館高専でもロシア語が導入されることについてどう思いますか?

A. まだ4年なので、5年になってからじゃないと決められません。

Q. 将来、技師やその専門に携わっていくためにこの学校に入ったのですか?

A. 将来のことはまだ考えていません。就職率がよいから入学したというのもありました。学校の半分の生徒がまだ将来について未定です。

人々何か作るのが好き。クラスメイトは車好きでメカに詳しいです。構造計算や数学系はやはり難しい。努力が必要です。

Q. 卒業後は違う大学に編入を考えていますか?

A. 就職希望です。

Q インタビューした人
ロシア極東国立総合大学函館校
前馬さん・山口さん

Q. 工業系は男性というイメージですが、実際どれくらいの割合で女性がいるのですか?

A. ほとんど女性はいません。圧倒的に男性が多いですが、最近徐々に女性が増えてきています。

Q. 学校行事にはどのようなものがありますか?

A. 全国高専ロボットコンテスト(ロボコン)があり、地区予選に出ています。今年の大会はすでに終了しました。昔、映画のワンシーンにも出たことがあります。ロボコンの準備費用は学校が負担しています。

Q. クラブ活動について。野球部は強いですか?

A. バレ一部に所属しています。野球部の今年の試合はがんばっていたと思います。惜しい試合でした。

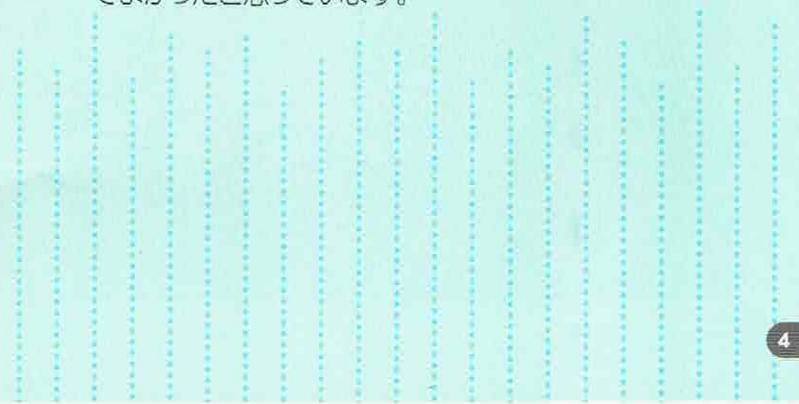
環境都市工学科 第4学年
鍵谷 明日香さん
七飯町出身

Q. 卒業研究は共同で行うのですか?毎年先輩方はどのような内容の研究を発表しているのですか?

A. 個人で決めます。テーマは先生と決めることになっています。研究費用は学校が負担します。

Q. この学校に入って悔いはありますか?

A. 最初みんな後悔します。でも仲良く過ごしていくうちに、この学校が好きになります。最近ではここに入学してよかったと思っています。



5

A インタビューされた人

北海道教育大学函館校

人間地域科学課程地域創生専攻地域福祉分野1年 人間地域科学課程地域創生専攻地域福祉分野1年

安田 祐衣華さん

井 内 彩 生さん



Q インタビューした人

函館工業高等専門学校

村田さん・鍵谷さん

Q. 何故、教育大学に入ったのですか？

A. 「福祉関係の仕事に携わりたかったから。」「教育関係の仕事に興味があったから。」など、必ずしも全員が教師になりたくて入るわけではありません。
今年度から、教員免許をとらなくてよくなりました。

Q. 専攻はどのようなものがありますか？

A. 人間発達専攻、国際文化・協力専攻、情報科学専攻、地域創生専攻、環境科学専攻などがあります。専攻によってそれぞれ学んでいる内容が全然違っていて、教育を勉強するにもいろんな種類があります。学科によって学ぶことが全く違ってくるのは高専も一緒でしょ。



人間地域科学課程地域創生専攻

地域福祉分野1年

安田 祐衣華さん

岩見沢市出身

Q. 主にどのような授業があるのですか？

A. 福祉関係の授業を受けています。
私たちの専攻は高専と違って数学や物理ではなく、テストもそれほど難しくはありません。



Q. 実習先は？

A. 教師になりたい人は、小、中学校（自分の母校など）へ行きます。

人間地域科学課程地域創生専攻
地域福祉分野1年

井 内 彩 生さん

徳島県吉野川市出身

Q. 学校行事は？

A. 新入生歓迎会、学校祭、スポーツ大会、その他に、港祭りのいか踊りのパレードにも参加し、サマースクールなどもあります。

Q. 部活動は？

A. 普通の吹奏楽部やバンド部、バレーボー部の他に、奇術同好会など教育大特有の活動もいろいろあります。サークル活動もあります。（学生支援活動のガッチャなど）

Q. ゆとり教育廃止による授業への影響は？

A. 今のところ、あまり関係ないようです。



6

A インタビューされた人

函館短期大学

食物栄養学科2年

宮本 新さん

食物栄養学科1年

山本 希さん



Q インタビューした人
北海道教育大学函館校
安田さん・井内さん

Q. この学校に入学して良かったと思えることは何ですか?

A. 同じ夢をもつ友達に出会えたこと。人数が少ないので親密になれます。高校生だったころよりも先生たちと仲良くなれたと思います。

Q. 将来の夢は何ですか?

A. 栄養士と福祉士の資格を取り、自分の施設を持ちたい。高齢者の人たちに向いた栄養のバランスのある食事を作っていきたい。

家庭科の教員免許を取り、現代の子供たちに、栄養のとれた食事の大切さなどについて教えていきたい。



食物栄養学科1年
山本 希さん
岩手県滝沢村出身

Q. 普段からバランスの取れた食事をしているのですか?

A. 外食などすると脂質や添加物などが気になったりします。健康には気を使っています。
いつも調理実習をしているので、家では気を抜いた料理を作ります。(笑)

Q. 一番おもしろい行事は何ですか?

A. 学祭。エアロビクス部のダンス発表。研究室対抗のバスケットコンテスト。料理系のサークルが多いため、料理系のお店を多く出しています。

Q. 部活動に入っている割合はどうですか?

A. 少ない。料理系のサークルが多い。珍しいのはフラダンス部や粉捏(こなこね)部など。

Q. 講義は楽しいですか?

A. 高校に比べれば楽しい。特に実習が楽しい。調理実習は毎週あります。高校より先生がかまってくれ、わからなければとことん教えてくれます。

Q. 学校はきれいですか?

A. 建物自体が新しいわけではないけれど、衛生面を考えるととてもきれい。先生たちのチェックも厳しく少しでも衣服に汚れが付いたら講義を受けさせてもらえないことも。調理器具はアルコールなどで毎回消毒しています。

Q. どんな人が多いですか?

A. 男女、先輩後輩、関係なしに仲良し。全校生徒は200人と少なく、寮には50人以上も入っているが、男女、学年関係なく入っているのでみんな仲良しです。みんな目標を持って講義を受けています。Wスクールの調理師専門学校にも通っている人がとても多く、バイトをしている人もたくさんいます。



食物栄養学科2年
宮本 新さん
中標津町出身



7

A インタビューされた人 公立はこだて未来大学

システム情報科学部情報アーキテクチャ学科4年

近藤 雅人さん

システム情報科学部情報アーキテクチャ学科4年

清野 摩耶さん



Q インタビューした人

函館短期大学

宮本さん・山本さん

Q. 未来大学の雰囲気は?

A. 学校がガラス張りなので、いつもみられているような感じがします(笑)

でも遅くまで残っていると、裏夜景が見れるいい面もあるんですよね!教室もガラス張りなので、函館の町並みも見渡せます。

校内のいろいろな場所に勉強ができるスペースがあるので、とても便利です!

ために音を使って絵の内容を理解してもらえるような補助機能の研究をしています。



システム情報科学部
情報アーキテクチャ学科4年

清野 摩耶さん

札幌市出身

Q. どんな勉強をしていますか?

A. 未来大学は3つの科にわかれていますが、3年生時にグループを組み1年がかりでプロジェクトをやっていきます。

去年やったプロジェクトは、函館には病院が多いので、それを検索できるソフトをつくりました。



システム情報科学部
情報アーキテクチャ学科4年

近藤 雅人さん

群馬県千代田町出身

Q. 今研究していることは何ですか?

A. 情報デザインを専攻していて、地域の住民の方の意見を聞いて、役にたてるような研究をしています。

認知心理学を専攻しているので、視覚障がい者のた

めに音を使って絵の内容を理解してもらえるような補助機能の研究をしています。

Q. 毎日の食生活で栄養を考えていますか?(笑)

A. 考えてないですね。一日一食のときもあるしコンビニ食が多いし、だめですね。

函館の給食を食べたいですね。お二人は考えているんですか?

(函館)してないですね(笑)気にはするんですけど毎食は作る気がしませんね。

コンビニ好きですし(笑)

Q. ドラえもんは作れると思いますか?

A. ドラえもんですか?(笑)アトムなら作ろうとしている先生がいますよ。ドラえもんってあれすごいですよね。感情があって、どら焼きを食べて、のび太君を怒って、で、欲しい物を出してくれるんですよ。あと少し浮いているとか。ドラえもんは難しいですよね。



学生相互インタビュー

8

A インタビューされた人

商学部IT専攻塾3年

重山 喜重さん

函館大学

商学部会計専攻塾3年

野邊地 優さん



Q インタビューした人

公立はこだて未来大学

近藤さん・清野さん

Q. なぜ函館大学を目指したのですか。

A. 将来事務職につきたく、商業について学べるからです。函館がよかったです。

函館で教員免許が取れ、周りの人も函館大学に親しい人達が多かったためです。

高校生のときからの夢に向かって、勉強に励んでいます。



商学部IT専攻塾3年
重山 喜重さん
函館市出身

Q. 大学と高校の違いはどういうところだと思いますか。

A. 専門分野を学べることです。
自由に授業をとることができます。

Q. 大学の講義はどうですか。

A. 大学では専攻塾授業が週4~5回あります。先生とも親しく、授業も楽しくて、充実した大学生活を過ごしています。

Q. 「専攻塾」とはどういうものですか。

A. 4年間を通して3人の塾担当の先生から指導を受けることができるシステムのことです。商学部には5つの「塾」(IT専攻塾、会計専攻塾など)があります。また、塾に所属しないで、「ゼミナール」を受けながら研究することもできます。

[感想]

今回の意見交換に参加し、初めて他校の学生と話をするきっかけを持つことが出来ました。

自分とは異なったことを勉強している人たちとふれあい、とても刺激になりました。ここに参加した学生の方以外の学生も参加できるようなものによって、8高等教育機関は交流をして、それぞれを高めあい活性化させて、これから函館市が賑わうように活動できていければ良いと感じました。



商学部会計専攻塾3年
野邊地 優さん
函館市出身



感想 インタビューを終えて…



高専へ質問するにあたってパンフレットを拝見しました。専門的なことが書いてありました。普通の人にとってちょっと興味を持ちにくいと思いました。今回私たちが何気なく疑問に思い、質問したようなことをパンフレットに詳しく載せると一般の人はわかりやすいのではないか?と思います。

今回の学生相互インタビューに参加して他校の特徴などを聞いて新たな興味を持つことが出来ました。ロシア語だけではなく、いろんな分野に興味を持ち、ロシアと結びつけることが出来ればいいな、と思いました。

とても楽しかったです。

ロシア極東国立総合大学函館校



緊張したけど、楽しかったです。またこんな機会があればいいな。

他の学校のことをいっぱい知れてよかったです。



北海道教育大学函館校

今回、函館大谷短期大学をインタビューしてみて、もっと他の大学・短大・高専の学生にもいろいろ自慢を聞いてみたいと思いました。ぜひ、2校だけでなく、全部の大学・短大・高専の学生と話できる機会があればいいと思いました。そうすれば、もっとこのキャンパスプレスの内容が充実すると思います。

函館大学



高専は高校の延長みたいな学校なので、大学生と同じ年齢なのに、この懇談会に参加するまでは、そういう意識はありませんでした。

大学生といえば、自分よりもすぐ大人なイメージだったのですが、同じ年の教育大学生と話してみて、将来のことをもっとじめに考えなければならないな、と感じました。もっとこういう機会を増やして、函館の学生みんなで協力し合える環境になってほしい。そして、高専生の意識も変わればいいなと思いました。

函館工業高等専門学校



今回、参加させて頂いたことで、全く違う分野の研究をしていても、広いテーマをもつことで共通の研究や学習を行う事ができると感じました。積極的に他学校とのかかわりを深めていくと、より深い研究・学習が可能になるので、ぜひ多くの機会に参加したいと思います。



函館大谷短期大学

未来大と教育大と話しましたが、最初に思っていたイメージとだいぶ違いました。他の学校の人たちと何か一緒に協力してやっていきたいと思いました。

お互いに、どこの学校のことも知らないのですが、協力できることがわかったので、こうした機会を増やしていけばと思いました。

函館短期大学



北海道大学水産学部

とにかく今回インタビューした山口君は接しやすくて元気でした。その社交性の高さがあれば、ロシア語が話せなくてもロシアでも必ずやっていけると思う程でした。彼が貿易のことを熱く語り、しっかり先を見て勉強している姿は輝いて見えました。そんな彼の後ろには先生や友達との密な関係が垣間見られました。

前馬さんは照れながらもインタビューに対してしっかり答えて下さいました。少人数制の大学ということで多少物足りなさを漏しながらも自分の通っている大学に誇りを持っているようで、極東大学の魅力についてたっぷりと聞かせて頂くことができました。自分の目で極東大学の様子を見てみたいな、そう思えるインタビューでした。

公立はこだて未来大学



大学連携という話は聞いたことがあって、学校ごとに分野が違うので難しいと思っていたが、今回、他の人の話を聞いて、応用部門で関連づけができる可能性があると思いました。こうした連携は面白いと思います。

学んでいる分野が違っても繋がることができると感じました。相手の学校がうらやましいと思うこともあって、直接話すということは凄いことだなと思いました。

大学センター構想

函館市には、8つの高等教育機関があります。

公立はこだて未来大学

函館大谷短期大学

函館工業高等専門学校

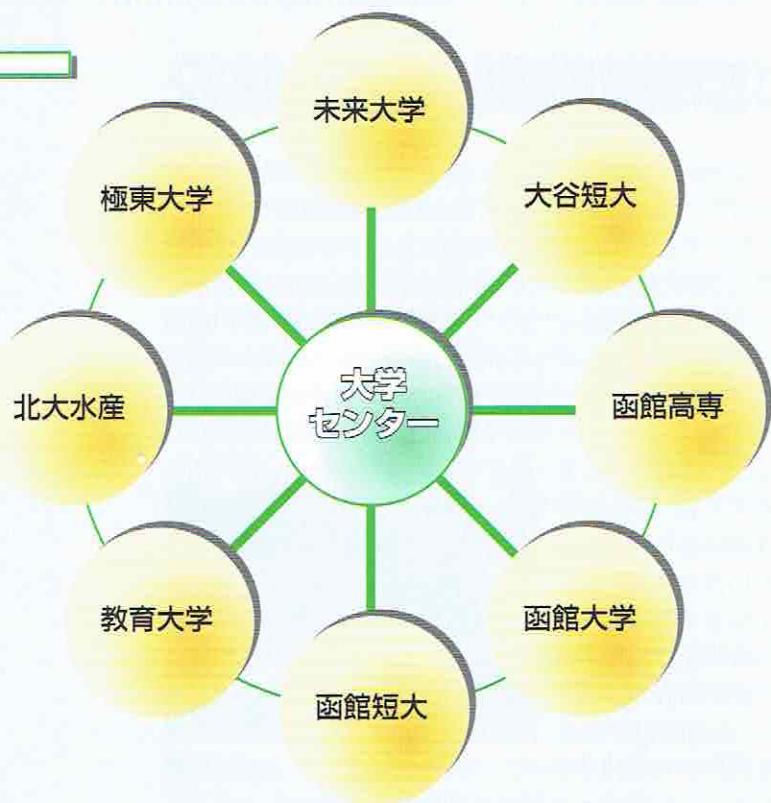
函館大学

函館短期大学

北海道教育大学函館校

北海道大学水産学部

ロシア極東国立総合大学函館校 です。



この8つの高等教育機関は、それぞれ専門分野が異なることから、8校の力が結集すれば、総合大学に匹敵するような大学群を形成できるのではないかという発想のもと、8校と函館市が連携して、「函館市高等教育機関連携推進協議会」を設立し、「函館・大学センター構想」を策定しました。

現在、8高等教育機関が連携して、色々な事業に取り組んでいます。

この「はこだてキャンパスプレス」は、市内8校の教育・研究活動や学生の様子などを紹介する合同広報紙です。

このほか、平成18年度は、合同公開講座「函館学」や「アカデミック・フライ特inはこだて～市内大学・短大・高専合同説明会」を開催しました。また、公立はこだて未来大学と函館工業高等専門学校が単位互換制度(※)を開始し、北海道大学水産学部の教員が函館大谷短期大学へ講師として派遣されるなど、各校の連携が着々と進んでいます。

*単位互換制度：A大の学生がB大の講義を受講し、習得した単位をA大の単位として認定する制度。例えば、函館高専の学生が未来大学の「ロボティクス」の講義を受講し単位を修得できれば、函館高専の単位として認定されます。



◆アカデミック・フライ特inはこだて



◆函館学



北海道教育大学函館校

現在私は、湯の川温泉街活性化事業委員会の専門委員として湯の川温泉街の活性化のお手伝いをさせていただいている。温泉街の活性化といっても、ホテルや旅館だけが一時的なイベントなどによって集客するのではなく、湯の川地区全体を元気にして魅力ある地域を形成し、観光客・市民に利用してもらおうというねらいが背景にあります。それを実現するために、現在様々な事業が展開されていますが、私が行なっている事業は、これまであまり知られることのなかった湯の川地域・温泉街の歴史調査と現在の湯の川温泉調査、湯の川地域の飲食店・商店の調査です。

歴史調査については、函館市中央図書館、湯の川の歴史を研究している地元の方々、温泉旅館組合などの協力によって歴史資料の収集・調査を行いました。また、飲食店・商店の調査は、北海道教育大学函館校のサークル、「まちワーク研究室」のメンバーに協力していただき、店舗情報の収集を行ないました。ほとんどが、アポなしの突撃取材にもかかわらず、商店主の皆さんは快く取材に協力してくださいり、隠れた名店の発見とともに、商店主の皆さんの温かさを実感した調査となりました。これらの収集した情報は、「湯の川歴史読本(仮称)」と「まちあるきマップ(仮称)」の原案として活用される予定です。

また、温泉街をもっと身近に感じてもらえるよう、今年の10月21日から11月5日まで行なわれた「はこだて湯の川温泉泊覧会」(通称:オンパク)のプログラム“学生と歩く湯の川Part I・IIにおいても、歴史調査で得られた情報から、まち歩きプログラム専用の『湯の川歴史読本』と『湯の川まち歩きマップ』を製作し配布しました。また、オンパクスタッフとしてプログラムの事前準備と引率、時には講師として説明するなど、普段の学生生活ではなかなか体験することのできない貴重な経験をすることができました。

これからは、収集した情報をどのように活用・公開していくかが問われてくるのではないでしょうか。調査して終わるのではなく、得られた情報を最大限活用していただき湯の川の活性化の一助となれば幸いです。

北海道教育大学函館校 4年 山崎 拓郎



- 所在地／〒040-8567 函館市八幡町1番2号
- TEL./0138-44-4411(代表番号案内)
0138-44-4218(入試問い合わせ)
- FAX./0138-44-4380
- E-mail/kyomu@cc.hokkyodai.ac.jp(入試問い合わせ)
- URL/北海道教育大学 <http://www.hokkyodai.ac.jp/>
函館校 <http://www.hak.hokkyodai.ac.jp/>

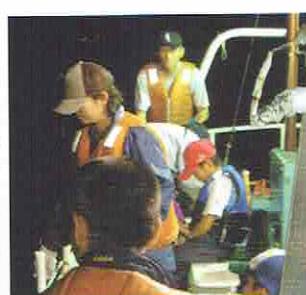
北海道大学水産学部

■新・海洋水産業創成シーズ教育プログラム「Theイカ」



北大水産学部では、8月から10月にかけて新・海洋水産業創成シーズ教育プログラム「Theイカ」を実施しました。この「Theイカ」は、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」として、函館圏において道南・函館圏の自然環境とこの地域を代表する水産資源「イカ」をさまざまな観点から学び、それらをもとに函館の新しい「町づくりシーズ(種子)」を参加者自身が思考し、発信することを目的とした市民参加型の新しい大学教育として、昨年の「The昆布」に引き続き行いました。

実際行われた企画内容は活イカの解剖やイカ墨を用いたTシャツづくりに加え、イカ釣り・イカ料理づくりのような体験実習、最前線の研究者が語る生きたダイオウイカを撮影した話やスルメイカの人工産卵の話といった世界初の発見についての講演、するめ・塩辛などのイカ加工品製造などをしている、函館圏におけるイカ地場産業の見学のように、いろいろな視点・角度から行われ、これらの学習をもとに、イカを活かした函館の地域活性化のためのシーズを市民、学生、教員と一緒に議論しました。



生きたイカを観察したり、実際に手で触れてみたりと函館にいてもまだ体験したことのないことを経験することができたこともあり、大好評のうちに終わりました。また、この企画参加者で考えたイカを活かした町づくりシーズの発表が、11月18日のアカデミックフォーラムでも行われました。



- 所在地／〒041-8611 函館市港町3丁目1番1号
- TEL./0138-40-5505(庶務係)
- FAX./0138-43-5015
- E-mail/shomu@fish.hokudai.ac.jp
- URL/<http://www.fish.hokudai.ac.jp/>

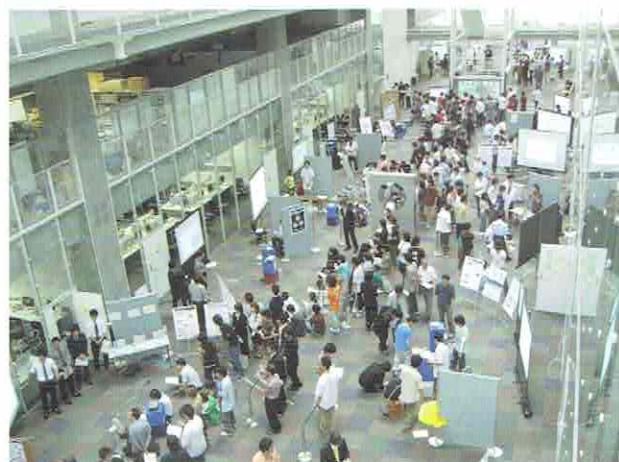
公立はこだて未来大学

■特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)に採択!!

「特色GP」は、文部科学省が大学教育の改善に資する種々の取り組みのうち特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供することで、高等教育の活性化を促進させることを目的とした制度です。

平成18年度は331件の申請に対して、本学のほか47件の大学等の取組が採択されました。

特色GPに採択された取り組みは、本学の3年次の必修科目「システム情報科学実習(プロジェクト学習)」であり、企業および地域社会等と連携して、1年間かけて1つのテーマに取り組むもので、テーマは未来大学の講義内容だけでなく、実社会の問題からも選ばれます。学生は約20のプロジェクトのうち、自分に合うプロジェクトを選択し、担当教員と共に、問題提起から問題解決までのプロセスを実際に体験するものです。



なお、今年度、プロジェクト学習の成果発表会を次のとおり開催します。

- ・12月15日(金)午後3:00~5:30
／公立はこだて未来大学
- ・1月31日(水)午後2:00~5:00
／品川プリンスホテル新館
- ・2月2日(金)午後2:00~5:00
／ホテル札幌ガーデンパレス



公立はこだて未来大学
FUTURE UNIVERSITY-HAKODATE

- 所在地／〒041-8655 函館市亀田中野町116番地2
- TEL./0138-34-6444(入試・広報・教務関係)
- FAX./0138-34-6383
- E-mail/exam@fun.ac.jp(入試問い合わせ)
- URL/http://www.fun.ac.jp/

学校法人野又学園 函館大学

■高大連携授業

本学は、津軽海峡を中心とする地域の高等学校7校と高大連携の協定を結び、教育活動を行っています。このたび連携校のひとつである青森商業高等学校と「青函をテーマに商品開発に取り組もう」と平成18年11月8・9日の両日大学を会場に高大連携授業が開催されました。

これは大学の専門性と、大学生のアイデア・助言を得ながら高校生の企業家精神の高揚と資質・能力の持つ人材の育成を目指したもので、3つのグループによりブレーンストーミングなどで地域をイメージした商品について企画書をまとめ、最終日に高校生がプレゼンテーションを行いました。

■函館精銳塾

2005年度から函館市雇用創造促進協議会とともに雇用の創造と拡大を目指す事業の一環として本学が企画し開催している「函館精銳塾」の今年度のテーマは「マネジメントを学ぶ」として5講座(1.情報化社会と中小企業、2.経営計画と資金、3.リーダーシップと人間関係、4.市場とブランド、5.マネジメントの心)を構成、本学教員等が担当し、魅力ある「函館人」の育成を目指しています。



■放送大学函館学習室開設

平成18年6月、函館市・放送大学・函館大学により、本学図書館内に「放送大学函館学習室」が開設されました。同学習室は道南エリアでは唯一のものであり、これまで再視聴や試験のために札幌まで行っていた放送大学の学生の利便は格段に向上了しました。さらに、本学と放送大学との「単位互換協定」も結ばれ、放送大学の教育課程から選択し視野の広い学習ができることとなり、放送大学の学生も本学の開設科目から選択履修ができるようになりました。



- 所在地／〒042-0955 函館市高丘町51番1号
- TEL./0138-57-1181
- FAX./0138-57-0298
- E-mail/soumu@hakodate-u.ac.jp
- URL/http://www.hakodate-u.ac.jp/

函館大谷短期大学

コミュニティ総合学科では、「地域に根ざした教育」「地域に貢献できる人間」を目指して日々勉学に励んでいます。その中でも「社会人特講」という科目では、今現在道南地域で活躍している社会人の方々を毎回講師として招き、道南地域や北海道の状況、ご本人がそこに行き着くまでの話などを講演していただいています。

前回の講義では、「はこだてクリスマスファンタジー」初代実行委員長の星野氏を招き、このクリスマスファンタジーがいかにたくさんの偶然と出会い、また多くの努力から始まったものであるかを、DVDやビデオの映像を交えながら講演されました。

今回は「NPO法人なちゅらす」代表の赤石氏を招き、キャンドル作りを体験しました。「なちゅらす」ではただ単に物を作ったりするだけではなく、自然や環境に配慮したものづくりを心がけています。

また「なちゅらす」は、本来こどもを対象とした自然体験を学ぶための団体です。普段こどもたちには、手をかけて教えるのではなく、手を離し遠くから見守ることにより、こどもたちが自ら考え自ら学んでいくことをモットーとしているという話をされました。今回キャンドル作りを体験した学生からも、「自分がこどものときにこんな体験をしてみたかった」という感想がもらえるほどの講演でした。

今後は、ハワイのダンス「フラ」（「フラ」自体ダンスの意味があるので、「フラダンス」という表現は正しくないそうです）を学ぶ時間や、「なちゅらす」による第2回目の講演、「雪中講義（仮題）」というのも用意しています。地域に根ざした活動をされている方々のエネルギーをたくさんいただいて、学生たちは1年半後社会へと飛び出したときに、地域に貢献できる人間として成長しているものと信じています！



 **函館大谷短期大学**
HAKODATE OTANI

- 所在地／〒042-0955 函館市鍛冶1丁目2番3号
- TEL./0138-51-1786
- FAX./0138-52-6494
- E-mail./info@hakodate-otani.ac.jp
- URL./http://www.hakodate-otani.ac.jp/

学校法人野又学園函館短期大学

■平成19年度入学試験より募集定員を増員しました

函館短期大学では平成17度に受審した財団法人短期大学基準協会による第三者評価の結果、平成18年3月に「適格」であるとの判定をいただくことができました。また平成18年度入学試験の志願者は例年を大きく上回るほど増加しましたが、十分に対応することができませんでした。本学ではこの地域社会のニーズに応えるべく、食物栄養学科の入学定員増(100名から120名へ)を平成18年7月に文部科学省ならびに厚生労働省に申請していましたが、この度9月末に各省の大蔵より承認の通知をいただきました。これにより平成19年度入学試験より、現状100名であった入学定員を120名といたしました。(詳しくは本学ホームページをご覧ください。<http://www.hakodate-jc.ac.jp/>)

■ホームページ連載コラム&レシピ「食・健・幸」

函館短期大学では受験生はもとより地域の皆様への情報発信として、本学ホームページに「食と健康」をテーマにしたコラムおよびレシピの連載をスタートさせました。本学の学生は栄養士となるために、生涯を通じて健康で長生きし快適な生活を送るための適切な食生活を実践する知識と技術を学んでいます。これは世の中のすべての人々が願う健康のためのものでもあります。「食を学ぶことは健康を学ぶこと。健康はすべての人が願う幸せ。」というキーワードを基に「食・健・幸」と名づけたこのコンテンツは、少しでも役に立つ話題やレシピを一般の方々にもご紹介し、生涯を通じて心身ともに健康であっていただきたいと願いを込めたものとなっています。

また本学では受験生を対象とした携帯電話版ホームページ(<http://www.hakodate-jc.jp/>)を、今年7月からオープンし、入試に関する最新情報の確認や資料請求などもできるようになりました。



携帯サイト

 学校法人野又学園
函館短期大学

- 所在地／〒042-0955 函館市高丘町52番1号
- TEL./0138-57-1800
0120-57-1820 (入試専用)
- FAX./0138-59-5549
- E-Mail./hakotan@hakodate-u.ac.jp
hakotan1@hakodate-u.ac.jp (入試専用)
- URL./<http://www.hakodate-jc.ac.jp/>
<http://www.hakodate-jc.jp/> (携帯サイト)

函館工業高等専門学校

■第2回函館高専学生課題研究コンペティション開催 (2006/10/22)

10月22日、高専祭において、学生が自主的に進めた研究の成果を発表して出来栄えを競う第2回函館高専学生課題研究コンペティション(Project-ZERO)が行われました。本科、専攻科の学生がチームを組み、今回は自由部門に5チーム、高専CM部門に2チームが参加しました。

参加チーム数は昨年の3チームから大幅に増え、会場には一般観衆の多数参加もあり活気ある会となりました。

★研究テーマ

自由部門

「曇りの函館山イベント」

「専攻科推進プロジェクト」

「路面電車の空港接続に挑戦!!」

「ここほれ!!ひろし」

「函館市電シミュレータの作製」

高専CM部門

「高専を知って欲しい、高専の魅力アピール」

「クレイアニメを作る」



■函館高専一公立はこだて未来大学互換単位交付式 (2006/11/1)

今年度から、公立はこだて未来大学と函館高専とで単位互換協定が結ばれており、11/1前期講義の修了に伴う初の授与として単位修得証明書交付式が行なわれました。

未来大の3年生2人、4年生1人が高専の「都市工学」を受講、高専専攻科の1年生8人、2年生1人の9名が未来大の「ロボティクスII」を受講し、このうち2人が「人工知能I」も受講しました。

この互換単位の交付式には、12人全員が出席しました。



未来大と高専、単位互換



函館工業高等専門学校
Hakodate National College of Technology

- 所在地／〒042-8501 函館市戸倉町14-1
- TEL./0138-59-6339 ●FAX./0138-59-6310
- E-mail/admin@hakodate-ct.ac.jp
- URL/http://www.hakodate-ct.ac.jp

ロシア極東国立総合大学函館校

ロシア極東国立総合大学函館校では教室での授業以外にも、様々な現場でロシア語を使ったりロシアとの交流を深める機会があります。それは実践を通して語学力をつけることはもちろん、人として国際感覚を身につけるチャンスでもあります。

日常的に市民交流のお手伝いや通訳のアルバイト等を頼まされることしばしば。即戦力を問われる場面で自分を試すことができます。

■極東大学付属観光大学留学生受入れ

ウラジオストクにある本学付属観光大学国際観光学部に所属する5名のロシア人留学生が函館の温泉ホテルで1ヶ月間研修を受け、日本の観光ビジネスやもてなしの心などを勉強しました。

留学生たちはまず函館校で、ホテルの支配人から日本旅館の歴史や日本料理の特徴などについて講義を受けたあと、ホテルでアテンダントやウェイトレスなどの接客業務や清掃などの実習に移りました。

函館滞在中は函館校の通訳・翻訳サークル「訳者小屋」がロシア語による市内観光案内を行い、本校の学

コシア留学生終了証書授与式



生たちとも交流を深めました。

留学生は「日本文化を学び、日本が誇る高レベルのサービスを見ておくことは、自分たちの将来にとって必ず役に立つ」と話していました。

■文部科学省「外国大学の日本校」に指定

函館校は、平成18年6月23日付で文部科学省より「外国大学の日本校」として指定されました。本校のロシア地域学科は昨年度から卒業生に高度専門士として日本の大学院への入学資格を付与することが認められておりましたが、今回の指定により両学科とも、日本の大学との編入学や転学・単位互換が認められることとなり、日本の大学との接続が日本国内の大学間の接続とほぼ同様の取り扱いとなりました。



ロシア極東国立総合大学函館校
FESU 専修学校 ファーアイースタンスティートユニバーシティ函館校

- 所在地／〒040-0054 函館市元町14番1号
- TEL./0138-26-6523
- FAX./0138-26-0342
- E-mail/info@fesu.ac.jp
- URL/http://www.fesu.ac.jp/



はこだてキャンパスプレス Vol.4

発行:函館市高等教育機関連携推進協議会

編集:公立はこだて未来大学／函館大谷短期大学／函館工業高等専門学校／函館大学／函館短期大学／
北海道教育大学函館校／北海道大学水産学部／ロシア極東国立総合大学函館校／函館市

発行年月日:平成18年12月

連絡先:函館市企画部企画管理課

【所在地】〒040-8666 函館市東雲町4番13号 【TEL】0138-21-3697 【FAX】0138-23-7604

【E-mail】kotokyoiku@city.hakodate.hokkaido.jp 【URL】<http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/kikaku/kotokyoiku/>

デザイン・制作:のはら工房